



相談電話

027-221-0783

(おなやみなら)

群馬いのちの電話だより

2014.12 No.55

編集・社会福祉法人群馬いのちの電話 広報委員会
住所・〒371-8691 前橋中央郵便局私書箱6号
電話・事務局 027-221-1880 FAX027-220-5666

利休の心は、もてなしの心

NPO法人 茶道無経会 理事長 今井 睦子

2020年開催予定のオリンピックの招致プレゼンテーションの中で、「お・も・て・な・し」という言葉が話題になり、2013年度の流行語大賞にもなりました。また同年、「食のおもてなし」として「和食」がユネスコ無形文化遺産として登録されました。

今、「おもてなし」が日本の文化そのものであると完全に認識されているのではないのでしょうか。

- ・茶は服のよきように点て
- ・炭は湯の沸くように置き
- ・夏は涼しく冬は暖かに
- ・花は野にあるように
- ・刻限は早めに
- ・降らずとも傘の用意
- ・相客に心せよ

これは、「七則」という利休の教えです。弟子から「置茶」の極意は「？」と尋ねられた時の利休の答えが、これにあると言われています。

「和・敬・清・寂」と合わせて「利休四規七則」と言い習わされています。客に如何に快く

過ごして頂けるかと心を砕く「おもてなしの心」が網羅されていると言えましょう。

設営方である亭主は、渾身の準備を進めます。当日は、用意される空間と味と道具を、そして、その中に込められた文化（趣向）というものを読み込みつつ、有難いひとときを楽しみます。

夏のむしむしと暑いときは、涼空間を形成する水や風がたっぷりと取り入れられ、「夏は涼しく」を演出します。茶席では、水の入る水指（みずさし）という茶道具が客座近くに仕組まれ、火元の釜は壁側に置かれます。簾や簾戸を通しての風を感じることも新鮮な心遣いとされています。

冬の空間では、客の膝近くに「炉」が置かれ、囲炉裏端の風情が演出されます。炉には夏釜より大振りの釜がかけられ、釜から発せられる湯気が、暖かく、ほっこりとした雰囲気をかもしだします。「冬は暖かく」の心遣いです。

季節感を喪失されがちな現代にあって、それらを設えるとともに、食味も盛り込んで「もてなし」となる文化を今に残してくれる茶道の醍醐味と触れるときは、何事にも代えがたい至福のひとつときであります。また、繰り返しのきか

相談電話

027-221-0783

相談受付時間 午前9時～午後9時30分 (年中無休)

深夜

☎027-221-0783

毎月第2・4金曜日は24時間受信

毎月第1・2・3・4金曜日

受付 (9:00～夜中0:00)

フリーダイヤル(毎月10日)

0120-738-556(8:00～翌8:00)

ない「一期一会」の貴重な時間でもあります。

最近、「接客は利休に学べ」という著書に触れました。その中で、著者は「他者に負けない最高の接客を生み出すためには、利休の唱える『もてなしの哲学』こそが最強の武器となるでしょう。」と強調しています。

茶道は、道楽・嗜み・暇つぶしと考えていらっしゃる方もいるでしょうが、ノー、ノー、ノーです。ぜひ「接客の神髄は、茶道における亭

主の文化」を学びとして頂きたいものです。

～他者を大切に思うことは、己も磨く～

〈赤城山裾のクローネンベルク至近の

林間茶室にて記す〉

今井睦子プロフィール

1945年生。前橋市在住。茶道愛好会「無経会」を1977年に立ち上げ、2003年NPO法人茶道無経会として法人化、主宰。

相談員のひと言

「傾聴ボランティア」と「いのちの電話」



4年程前、地元で傾聴ボランティアの活動を発足して活動を続けています。立ち上げの時から群馬いのちの電話のY研修スタッフに手伝ってもらい、今でも年2回程、聴き方の講座を開催しています。

傾聴する対象者は、一人暮らしの高齢者や赤ちゃんサロンで子育て中のお母さん等です。そんな中で感じたことを記したいと思います。

電話での聴き方と面接での聴き方では、相手の話を聴くということでは同じですが、いのちの電話での聴き方は、相手の顔が見えないこと、傾聴ボランティアの場合は、実際に視覚が入ることが大きな違いです。また、電話の場合は一回性ということで、その都度かけ手が変わりますから少し構えて聴くことがあります。でも、傾聴ボランティアの場合は、悩みがある人とは限りません。原則的に週一回お伺いしてお話を聞かせていただきます。回を重ねるうちに、相手の様子が少しずつ把握でき、構え

ることも少なくなり、逆に、親しくなる中でついつい慣れ合いになるので注意が必要です。

最近始めたのが、足湯に入りながらおしゃべりする「かたり湯」です。場所柄、温泉を利用したリゾートマンションが多く、そこで一人暮らしをする方に室外に出てもらおうというのが目的ですが、通りすがりの若い観光客の方も参加してくれます。これからは地元と外から訪れる人の交流の場になればと思っています。

これらの活動を通して、聴くこと一つにしても、その状況によって大きく変わってくることを認識し、行動することを学びました。その時々に応じて対応ができることが最も大事であるということです。これからも、発足当初からの23名の仲間と共に、必要とされる場所できめ細やかな対応ができる活動を目指していきたいと思っています。(R. O)